

特別展「海が支えた放生津幕府—明応の政変と足利義材—」関係年表

| | | | |
|------|------|-----|--|
| 明応2年 | 1493 | 3月 | 足利義材、畠山政長とともに河内へ出陣す、畠山基家を攻める。 |
| | | 4月 | 細川政元・伊勢貞宗ら足利義澄を擁立し、義材の廃立を図る。(明応の政変) |
| | | 閏4月 | 畠山政長自害し、子の尚順は紀伊へ逃れる。義材、細川方へ投降する。随行の奉公衆ら遁世する。 |
| | | 5月 | 義材、河内から京都へ護送され、龍安寺次いで上原元秀(政元家臣)の屋敷に幽閉される。 |
| | | 6月 | 義材、上原元秀の屋敷から脱出して越中へ向かう。 |
| | | 7月 | 義材、越中放生津に着く。 |
| | | 8月 | 畠山基家軍、越中を攻め、翌月全滅する。 |
| | | 11月 | 義材、大友材親・相良為統らに細川政元討伐への協力を求める。 |
| | | 12月 | 神保長誠、勸修寺西林院へ義材の放生津動座を伝える。 |
| 明応3年 | 1494 | 1月 | 興福寺大乗院主尋尊、元日の日記に「武家大將軍義材、越中に御座なり」と書く。 |
| | | 2月 | 義材、加賀狩野氏(幕府奉公衆)の忠節を賞する。 |
| | | 3月 | 放生津の義材に仕える集団に優れた人材がないという風聞がある。 |
| | | 4月 | 義材、勸修寺西林院へ禁制を出す。 |
| | | | 京都の曇華院主(義材妹)が義材側の連絡役となっているという風聞がある。 |
| | | 5月 | 越中の義材の勢威が強まっているという風聞がある。 |
| | | 7月 | 義材、紀伊の大寺院へ上洛について協力を求める。 |
| | | | 大友氏、大内氏、菊池氏、島津氏、相良氏ら、義材の上洛に協力することを約束する文書を義材へ送る。 |
| | | | 義材が九州の諸大名と連携して京都へ攻め上るという風聞がある。 |
| | | 8月 | 政元、朝廷に対して公家・寺社が放生津の義材と連絡を取り合うことを禁止するよう求める。 |
| | | | 義材、上洛について、吉見義隆に協力を求める。 |
| | | | 義材の上洛に関して、赤松治部少輔に越中国射水郡南市を与える。 |
| | | 9月 | 義材、神保長誠に命じて放生津城に武家御幡を立てさせる。 |
| | | | 義材派となった加賀一向一揆が越前を攻めるも敗退する。 |
| | | 10月 | 義材、9月に拳兵したことを大友氏に伝える。 |
| 明応4年 | 1495 | 1月 | 放生津の將軍御所が夜襲にあうも義材は無事という風聞がある。 |
| | | 7月 | 義材、吉見義隆に越中への随行の功を認め、所領を安堵する。 |
| | | | 義材、近江の山中氏に上洛軍への参加を促す。 |
| | | 11月 | 畠山基家軍、越中を攻めるも全滅する。 |
| 明応5年 | 1496 | 閏2月 | 義材、上杉房実を上洛への協力を求める。 |
| | | 4月 | 義材、帰国する遣明船の略奪を大内氏・大友氏・島津氏に許し、上洛の際の戦費とするよう指示したと風聞がある。 |
| | | 7月 | 大友家中で義材派と義澄派が対立し、大友材親の長男が毒殺されたという風聞がある。 |
| 明応6年 | 1497 | 6月 | 義材が6月に上洛するという風聞がある。 |
| | | | 蔵川某(神保長誠家臣)、義材帰京交渉のため京都へ行く。 |
| | | 10月 | 紀伊の大寺院へ畠山尚順に協力したことを賞し、河内での忠節を求める。 |
| | | 11月 | 義材、加賀国内の慈受院領に関する審理を、後日行うことを同院へ通知する。 |
| | | 12月 | 安富某(細川政元家臣)が越中に来る。 |
| | | | 神保長誠、松尾寺へ義材の動静を伝え、協力を求める。 |
| 明応7年 | 1498 | 2月 | 杉川平左衛門(種村視久家臣)、大和興福寺大乗院を訪れる。 |
| | | | 蔵川兵庫助・吉見義隆が河内に行く。 |
| | | 6月 | 義材の帰京運動が頓挫し、蔵川兵庫助・吉見義隆が越中へ戻る。 |
| | | | 明応の地震が発生する。 |
| | | 7月 | 加賀伝燈寺の使僧、義材に寺格昇進を願い許可され、お目見えも果たす。 |
| | | | 義材と細川政元の和睦交渉が細川政賢の妨害により頓挫したという風聞がある。 |
| | | | 曇華院主、放生津へ下向する。 |
| | | 8月 | 義材の帰京を細川政元が承知したので、9月に帰京するという風聞がある。 |
| | | | 義材、阿野季綱を通じて改名のため良い字を選ぶように東坊城和長へ依頼する。 |
| | | 9月 | 義材、放生津から越前へ動座し、朝倉貞景を頼る。 |